

協働的学習による表現力・発信力を育む授業づくり

鈴木 悦子 ・ 井長 洋 ・ 兼重 昇*

1. 広島大学附属東雲中学校における、協働的問題解決を実現する授業づくりのための視点

広島大学附属東雲中学校(以下、本校と略記)では、「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を、「さまざまな文化や価値観を理解し多様性を認め合いながら、自分の考えを明確にして問題を解決する力」と定義している。これまでの研究においては、協働的問題解決ができる子どもの育成をめざして実践を積み重ねてきた。その結果、導き出した協働的問題解決を実現する授業づくりの視点(一部)の中から、英語科授業における「表現力を育む授業を実現するための視点として」重点をおくものを抜粋したものを、次の表1に示す(広島大学附属東雲小学校・東雲中学校,2017)。

表1 協働的問題解決を実現する授業デザインの視点の抜粋(平成28年前期)

I. 授業前の構想 に関する視点
1 問題の設定 ① 身近な問いや切実感のある問い, 社会や地域に貢献できる問題を学習題として設定すること ② 1つの概念について, 多様な考えが出せる問題を設定すること ③ 問題解決の結果が複数存在するようなオープンエンドの問題を設定すること ④ 個人の問題解決から, 集団の問題解決へ変化させなければならない状況を設定すること 2 学習方法 ② 対話の前に考えをまとめる時間を十分とり, すべての子どもが考えをもてるようにすること ⑤ 問題解決に向けて多人数の前での発表を目的とすること ⑥ 操作活動や実験を設定して, 自分の考えを伝えたいと思う意欲を高めさせること 3 その他 ① 問題解決が, 何につながる知識なのかを意識させること ② 問題解決の鍵となる考え方を繰り返し指導しておくこと ③ 問題解決に向けた教師の働きかけを弱め, 子どもの意見を重視すること
III. 教師の介入
1 教師の基本的な姿勢 ① 子どもの対話には積極的に介入せず, 見守ることを基本とすること ② 教師の介入は, 介入するポイントを限定すること

2. 技能統合型授業における表現力を高める英語科指導のとりくみ

これからの社会は, 系統的にグローバル時代をきりひらく資質・能力を育むための「主体的・対話的で深い学び」を意識した指導を行うことで, 自らの課題を問題解決することができる子どもを育成する必要がある。併せて, 異なる価値観や文化をもったもの同士が柔軟な発想や相手を尊重する態度をもちながら向き合うことも重要である。

英語科では, 姉妹校との国際交流プログラムを通して, 自国の文化や習慣について, 理解や価値観を深めると共に, 海外への発信をめざした, 表現活動 "Show and Tell" を表2のように, 定期的に行っている。この活動は, ライティング・スピーキング・リスニングを含む技能統合型授業である。

* 広島大学大学院教育学研究科

Etsuko SUZUKI, Hiroshi ICHO, Noboru KANESHIGE

A Study of improving students' ability of properly expression and outgoing --through Collaborative work-

表2 “Show and Tell” による表現活動計画

第2学年	内容(Show and Tell)	備考
4月	”My Treasure”	身近な題材でチャレンジ
5月	”My Favorite Place in Japan”	Odyssey 生徒(カリフォルニア州)に向けての日本紹介(パンフレット作成)
9月	”Sign”	地域を違う視点から調査し,ユニークな看板を紹介
11月	”My favorite Japanese Movie or Anime”	EMS(バージニア州)生徒に日本のお勧めの映画やアニメを紹介する目的(プレゼント用冊子作成)
1月	”My Favorite place in Hiroshima”	EMS 生徒に広島滞在中に訪れてほしい場所を紹介
3月	”Traditional Japanese Events”	EMS 生徒に向けてプレゼン発表

2-2 研究方法と目的

本研究は,本校2学年2クラス(80名)を対象として,1年間を通して定期的に行った。研究の目的は,技能統合型授業において,協働的問題解決場面を設定した授業を取り入れることで,生徒の意欲や表現力の深まりについての効果を検証することである。研究方法は,4月に行った,第1回の”My Treasure”と,8か月後の1月に行った第4回の”My Favorite place in Hiroshima”をテーマとする”Show and Tell”の活動後に生徒が記述したワークシートの分析とする。

2-3 生徒の振り返りについての分析

NEW HORIZON English Course 2(東京書籍)では,初めに大切なものを発表する題材について学習する。その学習後,自分の宝物について発表する Show and Tell の活動を取り入れた。初めての,”Show and Tell”の授業実践後の生徒の振り返りでは,ライティングに対する難しさと,人前で発表することへの緊張感や準備不足など,多くの課題を挙げられていた。また,first draft をグループで推敲して,グループのメンバーのアドバイスを取り入れ,final draft を書いたことに対して,原稿がより適切な表現になったと効果を感じている生徒がいた。これは,表1のI-1-④「個人の問題解決から,集団の問題解決へ変化させなければならない状況を設定すること」に関わる。今回の題材が,自分の宝物についてという身近な題材であったことが,生徒への意欲や興味につながっていることも読みとることができた。これは,表1のI-1-①「身近な問いや切実感のある問い,社会や地域に貢献できる問題を学習題として設定すること」に関わる。以下に生徒の感想の一部をまとめる。

- 小さいころからのお気に入りでたくさんの思い出がつまっているものを語るのに,英語ではうまく言い表せなくて苦戦した。だけど,何回もすいこうして,いい文章にはなれたと思う。
- とても楽しかったです。でも本番で発音がおかしくなったり,早口になってしまった。そこが課題です。その課題を次の発表で克服したいです。そのためにもっと練習します。
- 最初は意欲が出ませんでした。けれど,みんなの頑張りに押されて,僕も頑張ることができました。
- 原稿を作るのは難しかったが,辞書で調べたりするうちに楽しくなってきた。一つのことを完成させるのは面白いと思った。
- 原稿を作るのに Google の英語訳を使ったらよくわからなくて困った。
- 自分の宝物についてしっかり整理し,昔のことをよく思い出して懐かしい感じだった。みんなの宝物を見ることができたのですごく楽しかった。また,原稿を考えるのは大変だった。
- 緊張していたので話すのが速くなってしまった。だから,聞き取りにくかったと思う。前で話すときは,ゆっくり,はっきりと話した方がやっぱり聞く人にとってはいいと思った。
- 英語で宝物を紹介するときにわかるように,やさしい言葉で書くのが難しかった。発表中ではみんなが何を言っているのかよくわからなかったの,聞き取る力をつけられたらなと思います。
- グーグル翻訳を最初に使っていたけど,みんなに伝わりにくいと思い,少しやわらかい表現にかえて発表した。発表するときは緊張した。正直どんな感じだったか覚えてない。
- 友達や先生に原稿を見てもらい,原稿はとても良いものができた。しかし,発表はつまってしまい,納得いかなかった。
- 思うようにスラスラと発表ができなかった。思い通りにするのは難しい。また機会があったらリベンジしたい。でも自分の宝物を英語で紹介できたのはとてもうれしかった。

次に、1月の“My Favorite place in Hiroshima”をテーマとした活動についてである。今回は3月に広島を訪問するEMS生徒に広島滞在中に、ぜひ訪れてほしい場所を紹介する原稿を書いてくることを冬休みの課題とした。これは、表1-1-①「1つの概念について、多様な考えが出せる問題を設定すること」、I-3-①「問題解決が何につながる知識なのかを意識させること」、I-2-⑥「操作活動や実験（ここでは調査活動）を設定して自分の考えを伝えたいと思う意欲を高めさせること」に関わる。それぞれの発表を4人班で聞き合い、相手にその場所の魅力がよりの確に伝わる表現になるよう、直した方がいい語句や表現を指摘し合い、アドバイスを取り入れて推敲させる活動を取り入れた。これは、表I-1-④「個人の問題解決から、集団の問題解決へ変化させなければならない状況を設定すること」に関わる。協働的学習の生徒の発言には、よくできている肯定的なことに意識が偏りがちになるため、「よくできているのは、わかっている。この交流では、お勧めの場所の魅力がより深く伝わるように、改善したしたらいいと思うことに注目して意見交流する」よう「教師の介入」を行った。これは、表1のⅢ-1-②「教師の介入は、介入するポイントを限定すること」に関わる。また、表1のⅢ-1-①「子どもの対話には積極的に介入せず、見守ることを基本とすること」としたことで、生徒たちは協働的学習パターンに慣れ、教師に頼らずにじっくり考えることができるようになった。

また、発表の際には、相手を意識して、特に伝えたいことはゆっくりとはっきり話すこと、魅力を伝えたいという気持ちで話すことをめざすよう示した。これは表2-⑤「問題解決に向けて多人数の前での発表を目的とすること」に関わる。

授業実践後の生徒の振り返りでは、Show and Tell（技能統合型活動）について肯定的意見が多くあった。以下はその一例である。

- 今日は、ゆっくりスピーチして、クラスメートの人が聞きやすいようにした。今までは分量が多く速く読まないといけなそうと思ひ、クラスの人とも何を言っているんだろうという感じだった。今日のShow and Tellでは自分が納得できたものだったので良かった。次回のShow and Tellの時は笑顔でこやかにやりたい。
- 内容を考えて書けたのはとても良かったと思ひ。しかし、声小さかったかなと思ひ。せつかくしっかりと考えたスピーチでも伝わらなければ意味がないので、今度は自分が話を聞かせたい相手を意識してスピーチをしようと思ひ。
- だんだん英作にも慣れてきて、ワード数が増えても、辞書を片手にすらすら書けるようになりました。発表の時は緊張してしまい、強弱などをつけることができませんでした。次は完ぺきになるまで練習して本番ももっとうまくなるようにしたいです。
- みんないろいろな表現の仕方、その場所の魅力を伝えていたのでとても面白かった。文は良いのに、発表の仕方がだめだと先生が言っていたので、その通りだと思ひ。私は次はもっと良い発表を意識してスピーチを楽しもうと思ひ。良い経験になった。
- 今日はいつもと違って、聞いている人に分かりやすいように説明することが目標だったので、1回正しい文を書いてから、そこから直していくのが大変だった。しかし、発表をするときに覚えて言うことを意識しすぎて伝えきれなかった部分があるので、次回に向けて改善していきたい。
- レベルの高いスピーチばかりだったけど、聞き取りやすい言葉で上手く文章をまとめていたのでわかりやすかった。自分はかなり早口になったのが反省です。
- 普段行っている所について調べたらいろんなことが分かっておもしろかった。また、他の人との交流で自分のスピーチに足りない所を補ったりすることができたので良かった。

3. 教科書を活用した発信力・表現力を高める授業実践

本節では、”Show and Tell”（技能統合型授業）に向けて、その土台となるライティングによる発信力・表現力を高めることをねらいとする授業実践を紹介する。

3-1 単元について

NEW HORIZON English Course 2（東京書籍） Unit7: The Movie *Dolphin Tale*

本学級の生徒に9月に実施したアンケートでは、次のような結果が見られた。例えば、「英語の勉強

は好きだ」という問いに、肯定的に回答した生徒は62%であった。しかし、英語で自分の思いを話したり、書いたりすることが好きだ」という問いに対しては、約60%の生徒が否定的回答であった。さらに、「英語で自分の思いを書くことは難しい」と感じている生徒が80%もいた。このことから、英語で自分の思いを表現することに苦手意識を持っていることが考えられる。

表3 英語に関するアンケート 2017年9月実地 (%)

	英語の勉強は好きだ	英語を聞くことは好きだ	英語で自分の思いを話すことは好きだ	英語の物語や長文を読むことは好きだ	英語で自分の思いを書くことは好きだ	英語で自分の思いを書くことは難しい
肯定的回答	62	60	38	38	40	80
否定的回答	38	40	62	62	60	20

本単元の本文内容理解後の最終活動は、自分のお気に入りの映画や本について紹介する原稿を書くことを設定した。その際に、比較表現を取り入れることをタスクとする。これは中学校学習指導要領の、「エ 書くこと」の指導項目「(ウ)身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。」に位置づけられる。その際に、比較表現を活用することで、自分の興味を持った作品の魅力を表現させた。ライティング活動ではマッピングを利用し、伝えたいことや情報を収集・整理することで、まとまりのある文章を書くことが苦手な生徒にもスムーズに書く作業に取りかからせるよう促した。また、グループで原稿の推敲を行うことで、文章構成の特徴を意識しながら一貫性のある表現力を深める活動を取り入れている。なお、既習の英語的知識や技能の習得が不十分であるために課題をスムーズにすすめることが困難な生徒へは、ライティングフォームを活用できるよう提示したり、個別に英語表現についての技能や考え方を支援するようにしている。

本時の目標

文構成を意識して、日本の映画やアニメについて、相手に分かりやすく表現することができる。

学習の展開

学 習 活 動 と 内 容	指導上の留意点 (◆評価)
1. Greetings (5分) <input type="checkbox"/> Today's teacher ・教師役の生徒があいさつ、曜日・日付・天気の確認をする。 ・”My favorite thing” についてスピーチをする。 ・生徒2名に質問をさせ、それに対する応答をする。	○話し手と聞き手の役割を意識するよう促す。 (アイコンタクト, あいづち)
2. Warm-up (3分) <input type="checkbox"/> 1-minute talk (ペア活動) ・”My favorite Japanese movie or Anime” についてトークする。	○本時の内容につながる題材を提示する。
3. Review (10分) <input type="checkbox"/> Summary of 'Dolphin Tale' ・ストーリーの概要を振り返る。 <input type="checkbox"/> Reading ALT's favorite movie	○ライティング活動の手本となるポイント提示する。参考になる例を示す。 ○まとまりのある文のモデルを示す。
4. Writing activity (30分) <input type="checkbox"/> Mapping ・opening, body, ending について構想する。 <input type="checkbox"/> Writing ・相手を意識しながら紹介文を書く。 <input type="checkbox"/> Peer reading for revision	○書く内容の構成を考えることで、まとまりのある内容になるよう意識させる。

<ul style="list-style-type: none"> ・グループで原稿を読み, アドバイスをする。 ・アドバイスをもとに紹介文を再考する。 <p>5. Consolidation (2分)</p> <p><input type="checkbox"/>ふり返り</p>	<p>○適切な文構成になっているかグループでアドバイスさせる。</p> <p>◆自分の考えや気持ちについて, 文のつながりや構成を意識した文章を書くことができる。【外国語表現の能力】</p>
--	---

まとまりのある文を書くときは, できるだけ Show and Tell のフォーマットを使うようにした。
 今回使用したワークシートを次に示す。

Writing: "My favorite Japanese movie or Anime"

● Mapping(日本語でも OK)



● First Draft

More than
60
Words

● Final draft

Words

● Thought

次のように、ワークシートの裏面には、英文を書くのが苦手な生徒のために、ガイドとなるよう授業の前半で確認した Writing form や例文を示した。

Hints Side

Writing form!

① You should see the movie " _____ " .	
② It is (my favorite)	
The most interesting (exciting)(impressive)....	理由
Morethan	
③ First, _____	
④ Then, _____	ストーリーの内容を3つ
⑤ Finally, _____	
⑥ Also, don't miss (the ending)(the.....scene). It's my favorite part	気に入っているところ
⑦ This movie is (about)(a story about)(a ~ story about)	
_____	テーマを1文で

★ Task

EMS の生徒のみんなは、日本に来るずっと前から日本に興味をもっています。EMS の先生から、日本の中学生の皆さんがどんな映画やアニメに興味をもっているのかを教えてくださいというお願いがありました。みなさんの好きな日本の映画やアニメの魅力や見所作者からのメッセージを伝え、EMS のみんなを “I want to watch it!” と思わせるような記事を書こう。

★ 目ざす Writing

Opening, Body, Ending の文構成を意識して、まとまりのある記事を書く。

John sensei's favorite movie

You should see the movie "Toy Story". It is the most moving CG animated movie. **First**, Buzz Lightyear joins all the toys in Andy's house. **Then**, Woody gets jealous and pushes Buzz out the window. **Finally**, the toys have to go rescue Buzz. **Also**, don't miss the scene in Sid's backyard. It's my favorite part this movie is a great story about becoming friends and being friends.

このように、教科書の単元の最終活動としてライティングをするときは、まとまりのある文を意識するようリーディングを行い、フォーマットや例文を示すことで、スムーズに英作文にとりかかれるよう手立てをしている。また、グループでお互いの英文を読んで推敲することで、読み手に伝わるライティングを心掛けるようになると思う。これは、表1の3-②「問題解決の鍵となる考え方を繰り返し指導しておくこと」に関わる。

また、グループで、推敲する際には、次のようなチェック表を基に、まとまりのある文になるような手立てを示している。

表4 協働学習によるチェック表

【英作文ピアチェック】(※4人グループで互いにチェックする)			
1. いいなあとと思う表現に赤線、理解しにくいと感じる英語表現に青線を引く。			
2. 前後の文がうまくつながらない箇所に△を記入する。			
3. 次の項目についてチェックする。確認ができた項目には✓をつけなさい。			
文構成チェック項目	名前	名前	名前
① 話題文(opening)を読んで、書き手が一番伝えたいことが分かるか。			
② Body(メインアイデア)はどれか分かるか。			
③ 指示文はBodyを適切に説明しているか。			
④ 全体がスムーズに流れるように必要な「つなぎ語句」を使用しているか。			
⑤ 結びの文(ending)は明確に書かれているか。			

4. まとめ

昨年度からの研究を踏まえて、生徒自身が、英語で発信することに興味をもち、相手に伝えたい気持ちで、意欲的に取りくむ授業づくりをめざした。そのために、本校の国際交流を通して、身近なところにある魅力手的なものを再確認し、世界に視野を広げ、相手意識をもって英語学習に取りくむ子どもたちの活動の姿から、将来グローバル時代を切り開く担い手になるだろうと期待を抱いている。

【引用・参考文献】

- 広島大学附属東雲小学校・東雲中学校、「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を培う教育の創造
 —協働的問題解決ができる子どもの育成をめざして—, 東雲教育研究会実施要項, 2017.
 文部科学省中学校学習指導要領解説 外国語編 平成29年7月
 NEW HORIZON English Course 2 東京書籍 平成28年2月